

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 News【第2号】

平成 19 年 2 月 27 日、平成 18 年度 第 2 回「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」を開催しました。



▲第 2 回 幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会の様子

平成 18 年度 第 2 回幾春別川ふるさとの川づくり懇談会を、以下のとおり開催しました。

- ・ 日時:平成 19 年 2 月 27 日(火)
10:00~12:00
- ・ 場所:岩見沢市民会館 まなみーる
多目的室①+②

当日は委員 12 名が出席しました。主催者である岩見沢河川事務所長からの挨拶の後、事務局から石狩川(下流)河川整備計画について、縦覧・説明会などの情報提供がありました。

その後、今年度で開催された「岩見沢市河畔広場・貯水池公園ワーキング」の結果について報告があり、ワーキングに対する活発な議論がなされた後、来年度の進め方について事務局から提案がありました。

第2回 幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 の主な発言から

第 2 回懇談会の主な発言をご紹介します。

ワーキングの結果について

- ・このワーキングでは、子供の意見を聞く機会がなかったのが残念である。子供とその親の意見を取り入れる工夫を考えてほしい。
- ・ワーキングの結果をみると少し背伸びしすぎているのではないかと思った。もう少しハードルを下げて誰でも気軽に参加できるところからやっていくべきである。
- ・舗装された管理用通路が幾春別川沿いにこんなに連続しているのを知らなかった。
- ・桂沢にカヌーができる人気の高い公園があり、クルミなど実のなる樹の人気も高い。実のなる樹の植樹は良いアイデアだと思う。
- ・河川の水を使うのであれば衛生面も充分考慮すべきである。
- ・消流雪用水公園周辺は、郊外で住宅地から離れていることが良い点だと思う。ドッグランとしても良い条件だと思う。
- ・この場所は、子供だけで気軽に来て遊べる場所ではないと思う。遠足などで利用できるのではないか。そのため、教育的な要素があっても良

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 委員

氏 名	所 属
鎌倉 健嗣	空知森林管理署 治山課長
嵯峨 義輝	幾春別川をよくする市民の会 会長
榊原 郁子	北海道教育大学岩見沢校 名誉教授
高篠 和憲 (副座長)	三笠の湖・川・緑を愛する会 会長
奈良 健二	空知管内商工会連合会 会長
深田 倫男	岩見沢市教育委員会 教育部長
宝沢 康晴 (座 長)	FM はまなす JAPAN 放送局 部長
眞野 弘	北海土地改良区 理事長
本山 博司	(社)岩見沢青年会議所 理事長
北山 一幸	三笠市 建設管理課長
菅原 重徳	岩見沢市北村支所 建設課長
橋本 秀之	岩見沢市 建設管理課長
西垣 幸夫	札幌土木現業所 岩見沢出張所長
江幡 一男	幾春別川ダム建設事業所長
平野 令緒	岩見沢河川事務所長
藤田 満士	桂沢ダム管理所長

いと思う。水車や風車などがあれば良いと思う。

- ・ヤマブドウ、マタタビ、コクワなどはどこの公園にもないため、実のなる樹とあわせて植えると良いと思う。
- ・雨水排水を活用して池に水を貯めるなどの工夫ができないか。
- ・岩見沢市には公園が多いが、利用は少ないと思う。人が集まる公園とするためには何か面白みがなければならない。
- ・公園に樹が少ない気がする。親子で樹や植物を植えるなどすれば自然を愛し家族の絆も強まると思う。

今後の進め方について

- ・何らかの活動を行うときは目的を明確にし、どのように継続していくかが重要である。
- ・岩見沢には大きな公園がいくつかあるが、そのような場所とはターゲットを変えて違いを出していくべきである。
- ・街中を流れる利根別川にも立派な散策路があるので、利根別川と幾春別川を連続させて河川だけではなく街中の散策路をすべて含めてネットワークを考えるべきである。
- ・公園を拠点としてサイクリングロード、散策路で連続させていけば子供たちも利用すると思う。
- ・サイクリングロードは距離を示しておくだけで利用度があがる場合もある。立派な看板などでお金を使わなくてもちょっとした工夫で出来ることがあると思う。
- ・最近ではウォーキンググループがたくさんあり、スタンプラリーなどのイベントが開催されている。サイクリング、散策路の活用にあたっては、どこまでがどのくらいの距離か分かるような距離標があったほうが良い。
- ・三笠にも散策路があるため、北村から岩見沢、三笠まで一連でつながると良い。
- ・三笠運動公園にも幾春別川の管理用通路がつながっており、良い散策コースとなっている。散策コースには途中で公園があると良いと思う。
- ・学校や地域に声をかけ一緒に自分たちの手で植えることで様々なことを感じてほしい。
- ・継続的に実施する人材が必要である。
- ・昔語られた夢が少しずつ実現してきている。むずかしいと考えられることも今後活動してい

くことで可能になるのではないかと。

- ・子供たちは自由な発想をするものであり、ルールどおりではない面白さを学んでほしい。教えられて学ぶよりも体験して学ぶことが大切であり、川はそういったことのための良い場であると思う。

安全管理について

- ・安全対策については、柵などではなくロープなどがあれば良いと思う。あとは自己管理の範囲だと思ふ。もっと川へ子供を呼ぶ工夫が必要である。
- ・ある程度の安全管理は必要だが、危険を教えることも大切である。

来年度について

- ・来年度は貯水池に試験的に一度水を貯めてみる。貯めた状態でネーミング募集を図りたい。
- ・水質試験を子供たちに行ってもらうなど、この場に人を集める工夫を考える。
- ・管理用通路について、距離がわかるように表示する。
- ・幾春別川沿いだけではなく、岩見沢市の遊歩道、北海道管理の河川の管理用通路も含めて幅広く連携したネットワークにしていきたい。

事務局からのお知らせ

「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」は公開で行い、どなたでも傍聴できます。開催日が決まりましたら、以下の場所に開催案内を提示します。

- ・ 三笠市、岩見沢市、石狩川開発建設部、岩見沢河川事務所の掲示板
是非、ご来場ください。

ご意見やお問い合わせは、下記事務局
石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所
〒068-0007 岩見沢市 7 条 9 丁目
TEL 0126(23)9555
FAX 0126(25)1697
まで、お気軽にお寄せください。